

歯列の矯正治療には「抜歯」が必要？

本当に必要な抜歯を、見極めることが大切です



23歳男性の治療例。前歯がでこぼこした状態に生える「叢生(そうせい)」を抜歯せずに治療。上は治療前、下は治療終了後2年たった時の様子

「きれいな歯並びになりたい」「良い歯並びで良いかみ合わせにしたい」と歯列矯正を考えてはいても、抜歯が怖くて治療に踏み切れないという人は多いようです。そこで、今回の歯の健康相談は、「矯正治療に抜歯は必要か？」について、ほりい矯正歯科クリニックの堀井和宏さんに聞きました。

「治療」のための抜歯

「歯列矯正治療では、必ず抜歯をするのですか？」

一般的に、大人の歯は、

上あごに14本、下あごに14

本の28本と、親知らずと呼

ばれる第三大臼(きゅう)

歯が上下左右に4本、合計

32本あります。

歯列矯正というと、これ

までは、かなりの割合で小

臼歯(前から4番目から5番

目の歯)を上下左右4本と

も抜歯。このような抜歯を

「便宜抜歯」と呼び、治療

しやすくするために便宜的

に行う抜歯が必要と考えら

れていました。また、親知らずが生えているとこれらも抜歯するケースが多く、合わせて8本の歯を失うことに。最終的に、永久歯は24本しか残らないということがよく見られましたね。

28本の永久歯を

できる限り残したい！

「怖い思いは、少ない方が

ありがたいのですが…」

実は、あごの骨の上に歯

が生える場所があれば、ま

た成長過程であごの骨の十

分な発育が望めるようなら

ば、抜歯をする必要がない場合もあるのです。

そのため、現在では、歯

列矯正の目的を十分に考慮

し、必要な抜歯だけ行う

「必要抜歯」という考え方

に変わってきています。以

前と比べると、技術的にも

進歩していますしね。

わたしがこれまでに治療

した患者さんの約61%は、

「抜歯をしていない」ケー

ス、もしくは「将来予想さ

れる親知らずの抜歯を前倒

して行った」「親知らず

の代わりに第二大臼歯(前

から7番目の歯)を抜歯し

た」ケースのいずれかです。

親知らずは、無くて生えないか、曲がって生えてい

るせいで歯肉がはれてしま

い抜かなければならないと

いう場合が多いのです。

「抜歯をしていない」ケ

ースでは、後に親知らずを

抜歯したとしても、永久歯

は28本残りますよ。歯列

矯正医は、口の中にできる

だけ28本の永久歯を残した

位と思っっているんですよ。

本当に必要な抜歯を十分

吟味することで、以前に比

べて抜歯する本数を減らす

ことはもとより、抜歯その

ものを避けられる可能性も

高くなっています。

治療の方針は
担当医とよく相談を

「それでも、歯を抜かなければいけない場合もあるのですか？」

もちろん、あごの骨の大

きさが28本の歯を並べるに

は不十分だったり、今後予

想される骨の成長があまり

期待できなかったりなど、

必要と判断すれば、8本の抜歯を行うケースもあります。

また、歯を抜かないということが、必ずしも良い結果をもたらすとは限りません。

治療の方針については、納得がいくまで治療を担当する歯列矯正医と相談することが大切です。